

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972500551		
法人名	医療法人 社団 若鮎		
事業所名	グループホーム 里山うらら		
所在地	高岡郡越知町越知甲283-1		
自己評価作成日	平成26年5月7日	評価結果 市町村受理日	平成26年6月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周囲は自然がいっぱいで、四季の移り変わりを肌で感じることができる最高の環境にある。  
利用者が生まれ育った地域で、地域の方と触れ合いながらゆったりと過ごして頂くよう家族の一員として支援している。  
特に、食事の美味しさが自慢で、地域の専業農家と契約し1年中美味しいお米を提供でき、ご近所やご家族の方からも季節の野菜を頂くこともあり、また、自家菜園でも野菜などを作って楽しい食事作りに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3972500551-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3972500551-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成26年5月20日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は町の中心部から少し離れた地域にあり、周囲は里山に囲まれ、利用者は四季の移り変わりを肌で感じながら、静かな環境の中で生活を送っている。事業所の共用空間は広く、そこでは同法人運営の他事業所と交互に健康体操が開催され、地域住民や利用者が参加し交流を図っている。また、家族の面会も多く、外出や外泊などに家族の協力があり、生活の中で馴染みの人や場所とのつながりが維持されている。町主催や地域の様々な行事に積極的に参加し、また地元の学校や幼稚園、近隣住民から訪問や野菜等の差し入れの支援もあり、地域に根付いた事業所を目指して理念に沿った取り組みが行われている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名：1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同が、理念を共有して常にその理念を基に支援を行っている。	理念である「時代に先駆けたケアの提供」を目指して、地域住民とのふれあいと自立支援を大切にするという基本方針を掲げ、毎日の勤務開始時に唱和するとともに、職員会では常に確認を行ない、理念の実現に向けた意識の共有を図っている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内一斉清掃へ参加したり、地域住民のホームの行事(誕生会・地域交流・運営推進会議など)への参加を呼びかけ、交流している。	地域の一斉清掃への参加や、町の文化祭の鑑賞など地域の行事に積極的に参加している。また、事業所の「いきいき健康体操」は、同一法人のグループホームと毎月交互に場所を変えて実施し、地域住民と利用者が参加している。近隣住民から季節の野菜等の差し入れもあり、日常的に交流している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流やその他の行事を通じて利用者への理解を深めてもらうとともに、地域住民を対象に認知症の勉強会を開催している。また、研修生の受け入れなどにも取り組んでいる。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容は毎月家族に配布し、面会時にはいつでも閲覧出来るようにしている。職員間でも共有して、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、地区長等の地域代表、町関係者、家族や利用者の代表で開催している。家族は欠席が多く、議事録を全家族に送付し報告している。利用者の状況、活動報告、行事予定、外部評価結果や目標達成計画等を議題として意見交換し、事業所運営に反映している。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に意見交換したり、研修会への参加を通じて担当部署との関係を築いている。	町関係者は運営推進会議に毎回参加し、情報提供や助言を行っている。2カ月毎に開催される町主催のケアマネジャーの定例会や、事例検討会があり、参加して情報交換をしている。町担当者とは日常的に相談しやすい関係が築かれている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会には積極的に参加して留意点を再確認し、文書により全職員で共有して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修や内部の勉強会に積極的に参加し、職員全員が身体拘束をしないケアの大切さを理解している。玄関は施錠せず、利用者一人ひとりの外出傾向を把握し、不穏な気持ちを落ち着けたり、外出に同行している。言葉による拘束の有無についても職員会等で、点検、確認し、適切な言葉遣いに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会には必ず参加して内部で伝達し、全職員が理解して虐待行為が見過ごされないように努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し、職員間でも話し合いを持つことで理解を深め、必要に応じた対応を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者、ご家族に書面を提示しながら説明を行い、理解と納得を得たうえで署名と押印並びに割り印をもらっている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等の相談窓口について書面で説明を行い、フローにも表示している。意見があればその都度内容を聞き、職員間や関連機関との話し合いのなかで改善に努めている。	家族の意見を表す場として家族会を年2回開催し、家族だけで話し合いをもっている。家族会では職員の対応や、事業所への要望をアンケート調査し、得た意見や要望を業務に反映している。家族の面会時にも利用者について話し合い、意見を聞くほか運営推進会議に参加を呼びかけ、意見を出せる機会を設けている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見がある場合には、必要に応じて臨時会を行うなど意見交換の場を設けて意思疎通を図っている。	2カ月に1回、または職員の発意により随時職員会議を開催し、職員の要望や意見を聞く機会を設けている。職員からは勤務体制に関する要望があり、改善に向けて取り組んでいる。職員の意見が出しやすい職場環境をつくり、職員のチームワークも取れている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課には報酬などについて職員と話し合いや確認をすることで、職員の熱意のみに頼るのではなく事務所サイドからモチベーションを上げるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じて勉強会に参加できるように、各個人に合わせて計画的に取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われるグループホーム連絡協議会の研修に参加し、情報交換を行いサービスの向上に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前にご本人の話を聞き、不安なく安心してサービスを受けて頂くようには配慮している。入居後もその都度要望に耳を傾けて信頼関係づくりに努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する段階から絶えずご家族の不安や要望を傾聴し、ご家族との関係づくりに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の話をよく聞き、最善の支援について職員ひとりの判断ではなく、フロア単位で話し合いを持ち、その人に応じた対応が出来るように努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と暮らしを一緒にしていきなかに、共に過ごし支え合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・ご家族と慣れ合いの関係にならないように十分配慮をしながら、絆を大切にしておご家族の一員として接している。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や遠出の時には、利用者個々の生まれ育った地域を選び、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	入居時には、馴染みの人や場所など大切にしてきたことを詳細に把握する努力をしている。地域の運動会、ふるさと訪問、町の行事、地区行事の文化祭やコスモス祭りなどに参加し、関係の継続に努めている。家族の理解も得られ、外泊や馴染みの場所への外出も行われている。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が孤立しないように共通の話題や雰囲気づくりに配慮して、お互いに支え合う関係づくりに努めている。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も定期的に様子を伺ったり、催しものへの参加を声掛けするなど、継続した支援が出来るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援に向けて本人やご家族より思いや希望・意向を聞き、全職員でその情報を共有し内容を把握して実施している。	本人からの要望や訴えが少ないので、表情や会話の中から思いの把握に努めている。家族からも利用者の今までの生活状況を詳しく聞き、日常的に本人、家族との対話を通じて家庭生活の延長線上の介護ができるよう、利用者の希望や意向の把握に努めている。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族との日々の関わりのなかで、これまでの生活歴や生活環境などの把握に努めて希望に沿えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を全職員が把握して、その人の1日の過ごし方を見つめていくことにより、毎日の習慣を知り総合的に捉えていくようにしている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を踏まえて関係者との話し合いの後に介護計画を作成し、定期的なモニタリングを行い本人・ご家族の希望や心身状態に応じてその都度見直しを行っている。	計画作成者と担当で本人や家族からの情報を得て、暮らしへの要望や意向を聞き、今までの生活が継続できるよう計画を作成し、他の職員にも計画を説明し修正も行っている。3か月ごとにモニタリングを行い、計画を見直している。ケア会議へ家族は参加していないが、必ず家族の意見を聞き、プランに反映している。	介護計画作成のためには、利用者の様々な面からのアセスメントが必要であり、心理面、生活歴等をより客観的に把握できるアセスメント方法等を検討することを期待したい。
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき・変化などの経過を個別に記録し、全職員が情報共有してケアの実施や介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の関連事業所とも連絡を密に行い、臨機応変に多様な支援が提供できるようにしている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町や地域包括支援センター・町内会・保育所・中学校・母体法人の医療機関など、地域資源と協働して利用者が安心して豊かな暮らしが出来るように努めている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の意見や希望を聞き、納得・同意を得て受診診断を行い、継続的に医療を受ける希望がある時にはその希望に沿える対応をしている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医での受診ができているが、内科的な疾患は母体法人の病院への受診が多く、同病院から週1回の訪問診療を受けている。専門病院の受診は家族に付き添いを依頼し、状況により職員が対応する場合もある。受診結果は記録し、全職員が結果を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に関する情報は、申し送りや連絡事項に記入するなど看護職員と絶えず情報共有をして利用者の健康管理を行っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師・看護師・ケースワーカーなどの医療関係者と協働し、ご家族と話し合いを持って情報交換を行い、利用者が安心して治療ができ早期に退院出来るように努めている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で本人・ご家族と話し合いを持ち、十分な説明のうえで同意を得ている。職員全員で利用者の情報を共有し、医療関係者とチームで取り組むようにしている。	事業所の看取りに関する指針に沿って入居時に説明し、家族の要望も聴取している。医療関係者とチームで終末期ケアに取り組む体制はできている。母体法人が医療機関であることから、家族が病院での終末を希望するケースが多い。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から全職員が実践力をつけるよう定期的に話し合いを持ち、連携病院との勉強会やAEDを使用しての訓練を行っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、全職員が避難方法を把握するように努めている。また、日頃より地域住民と連携して緊急時の避難誘導が円滑に出来るように備えている。	年2回、消防署の協力を得た訓練と事業所独自の訓練を行っている。地区長を通じて訓練への参加を呼びかけているが、高齢者の多い地域でもあり、参加者が少ない。2階の利用者を全員安全に避難させることを課題として取り組んでいる。消火器の点検や、備蓄食料品の消費期限等の確認を定期的実施している。	災害時における地域住民の協力は不可欠であり、日常的にあらゆる機会を捉えて訓練参加の呼びかけや、訓練内容の検討を行い、また、事業所も地域住民に貢献できることを広報し、理解を得ながら地域との協力体制を築くことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重してプライドを傷つけないように声かけを行い、人生の先輩としての対応を心掛けている。	利用者の話に傾聴と共感で接し、利用者を持たさない対応に努めるなど、人生の先輩として誇りを傷つけない姿勢でケアに取り組んでいる。職員はプライバシーの保護について認識をもち、外部との対応においても配慮ができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表し選択できる環境づくりを心掛け、利用者が自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見を聞き、それを取り入れて規制のない自由な生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択・髪のカットや毛染めなど、本人の思いや気持ちに沿って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望の好みなどを聞いてメニューに活かしている。テーブル拭きや下膳など利用者の能力に応じて職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。	職員は利用者に食べたい物の要望を聞き、希望に沿った献立を考えている。介護度の高い利用者が多いこともあり、時々食材購入に同伴する程度であるが、利用者は豆の皮むき、後片づけなど、簡単な作業に参加している。職員は介助しながら話題を提供し、利用者と同じ物を食べながら楽しい雰囲気を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量のチェックを毎日行い、栄養面を考慮し、個々にあった調理方法や盛り付けをしている。【定期的な母体法人の栄養士のチェックと栄養指導】		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケアを把握して、毎食後実施している。【必要に応じて歯科医の受診や指導を受けている。】		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、自立に向けての支援を行っている。	利用者の能力や排泄パターンを把握し、自立に向けた排泄支援を行っている。ポータブルトイレの使用は基本的に夜間のみとし、昼間はトイレでの排泄を優先して、自尊心に配慮しながら誘導を行っている。入居後にリハビリパンツから布パンツに変わった利用者もいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立にも便秘予防のメニューを取り入れたり（繊維の多く含まれた野菜など）、日常的に体操を行い便秘予防に努めている。（毎日の排泄チェック）		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その都度本人の希望を聞き、いつでも希望の日や時間に入浴ができるように配慮をしている。	毎日、朝から入浴できる体制を整えている。比較的午後に入浴を希望する利用者が多いが、本人の希望に合わせて随時、また、汚れたときに入浴支援を行っている。入浴を拒否する利用者もいるが、声かけの工夫やタイミングを見て入浴につなげる努力をしている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の思いや体調を優先して、自由にゆっくり休めるように支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者それぞれの内服薬について理解し服薬支援を行っている。また、症状の変化の確認に努めている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の世話をしたり、本や新聞を読んだり、芝生の草取りや菜園作りなど、利用者一人ひとりの思いに沿った過ごし方を支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望を聞き、自宅周辺や馴染みの場所へ散歩に行ったり、ご家族の協力を得て外出・外泊などの支援をしている。	事業所は自然環境に恵まれており、散歩によく出かけている。自力で歩行できる利用者は2名で、他の利用者は車椅子での散歩や外気浴を楽しんでいる。月に1回は法人の車で外食や四季折々の花見などの行楽に出かけている。そのほか、買い物や健康体操に出かける支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理している方もおり、利用者に応じた対応を行っている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてその都度電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。(個人での携帯電話2名所有)		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は環境設備を行い、不快や混乱を招くことのないように努めると共に、室内でも季節感が感じられる装飾をして、居心地良く過ごすことが出来るように配慮している。	玄関には季節の花や干支の壁掛けを飾り、窓からは四季の変化のある風景が見え、年回りや季節を感じられるようにしている。食堂兼居間では対面式の台所で職員が利用者と触れ合いながら調理を行い、生活感を与えている。壁には利用者の写真や習字を飾り、面会者に生活の様子を伝え、話題にして楽しく過ごせるよう配慮している。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる居場所も確保しているが、利用者はフロアで過ごすことが多い。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたタンスや椅子などを持参してもらい、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	入居前に、使い慣れた品々の持参を利用者及び家族に勧めている。居室の入口には写真などで自室がわかりやすい工夫をしている。居室ごとに異なる壁紙が貼られ、家族写真や家族からプレゼントされた人形や、母の日の花、テレビ、整理ダンスなどを置いて、利用者の思い思いの居室になっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の高さや床マットの滑り止め・トイレの表示など、利用者個々に合わせた環境作りを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同が、理念を共有して常にその理念を基に支援を行っている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内一斉清掃へ参加したり、地域住民のホームの行事(誕生会・地域交流・運営推進会議など)への参加を呼びかけ、交流している。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流やその他の行事を通じて利用者への理解を深めてもらうとともに、地域住民を対象に認知症の勉強会を開催している。また、研修生の受け入れなどにも取り組んでいる。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容は毎月家族に配布し、面会時にはいつでも閲覧出来るようにしている。職員間でも共有して、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に意見交換したり、研修会への参加を通じて担当部署との関係を築いている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会には積極的に参加して留意点を再確認し、文書により全職員で共有して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会には必ず参加して内部で伝達し、全職員が理解して虐待行為が見過ごされないよう努めている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会に参加し、職員間でも話し合いを持つことで理解を深め、必要に応じた対応を行っている。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご利用者、ご家族に書面を提示しながら説明を行い、理解と納得を得たうえで署名と押印並びに割り印をしてもらっている。</p>		
10	(6)	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見等の相談窓口について書面で説明を行い、フロアーにも表示している。意見があればその都度内容を聞き、職員間や関連機関との話し合いのなかで改善に努めている。</p>		
11	(7)	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b></p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員から意見がある場合には、必要に応じて臨時会を行うなど意見交換の場を設けて意思疎通を図っている。</p>		
12		<p><b>○就業環境の整備</b></p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課には報酬などについて職員と話し合いや確認をすることで、職員の熱意のみに頼るのではなく事務所サイドからモチベーションを上げるように努めている。</p>		

13	<p><b>○職員を育てる取り組み</b></p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間を通じて勉強会に参加できるように、各個人に合わせて計画的に取り組んでいる。</p>		
14	<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b></p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>定期的に行われるグループホーム連絡協議会の研修に参加し、情報交換を行いサービスの向上に活かしている。</p>		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを開始する前にご本人の話を聞き、不安なく安心してサービスを受けて頂くようには配慮している。入居後もその都度要望に耳を傾けて信頼関係づくりに努めている。</p>		
16	<p><b>○初期に築く家族等との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを開始する段階から絶えずご家族の不安や要望を傾聴し、ご家族との関係づくりに努めている。</p>		
17	<p><b>○初期対応の見極めと支援</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人・ご家族の話をよく聞き、最善の支援について職員ひとりの判断ではなく、フロア単位で話し合いを持ち、その人に応じた対応が出来るように努めている。</p>		
18	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b></p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者と暮らしを一緒にしていきなかで、共に過ごし支え合う関係を築いている。</p>		

19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人・ご家族と慣れ合いの関係にならないように十分配慮をしながら、絆を大切にしながらご家族の一員として接している。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外出や遠出の時には、利用者個々の生まれ育った地域を選び、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。</p>		
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士が孤立しないように共通の話題や雰囲気づくりに配慮して、お互いに支え合う関係づくりに努めている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス終了後も定期的に様子を伺ったり、催しものへの参加を声掛けするなど、継続した支援が出来るようにしている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>支援に向けて本人やご家族より思いや希望・意向を聞き、全職員でその情報を共有し内容を把握して実施している。</p>		
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人やご家族との日々の関わりのなかで、これまでの生活歴や生活環境などの把握に努めて希望に沿えるように努めている。</p>		

25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を全職員が把握して、その人の1日の過ごし方を見つめていくことにより、毎日の習慣を知り総合的に捉えていくようにしている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を踏まえて関係者との話し合いの後に介護計画を作成し、定期的なモニタリングを行い本人・ご家族の希望や心身状態に応じてその都度見直しを行っている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき・変化などの経過を個別に記録し、全職員が情報共有してケアの実施や介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の関連事業所とも連絡を密に行い、臨機応変に多様な支援が提供できるようにしている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町や地域包括支援センター・町内会・保育所・中学校・母体法人の医療機関など、地域資源と協働して利用者が安心して豊かな暮らしができるように努めている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の意見や希望を聞き、納得・同意を得て受診診断を行い、継続的に医療を受ける希望がある時にはその希望に沿える対応をしている。		



31		<p><b>○看護職との協働</b></p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者に関する情報は、申し送りや連絡事項に記入するなど看護職員と絶えず情報共有をして利用者の健康管理を行っている。</p>			
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b></p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医師・看護師・ケースワーカーなどの医療関係者と協働し、ご家族と話し合いを持って情報交換を行い、利用者が安心して治療ができ早期に退院出来るように努めている。</p>			
33	(12)	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>早い段階で本人・ご家族と話し合いを持ち、十分な説明のうえで同意を得ている。職員全員で利用者の情報を共有し、医療関係者とチームで取り組むようにしている。</p>			
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>日頃から全職員が実践力をつけるよう定期的に話し合いを持ち、連携病院との勉強会やAEDを使用しての訓練を行っている。</p>			
35	(13)	<p><b>○災害対策</b></p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を行い、全職員が避難方法を把握するように努めている。また、日頃より地域住民と連携して緊急時の避難誘導が円滑に出来るように備えている。</p>			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	<p><b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b></p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人格を尊重してプライドを傷つけないように声かけを行い、人生の先輩としての対応を心掛けている。</p>			

37		<p><b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の思いや希望を表し選択できる環境づくりを心掛け、利用者が自己決定出来るように支援している。</p>		
38		<p><b>○日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の意見を聞き、それを取り入れて規制のない自由な生活が送れるように支援している。</p>		
39		<p><b>○身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>衣類の選択・髪のカットや毛染めなど、本人の思いや気持ちに沿って支援している。</p>		
40	(15)	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の希望の好みなどを聞いてメニューに活かしている。テーブル拭きなど利用者の能力に応じて職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。</p>		
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b></p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分摂取量のチェックを毎日行い、栄養面を考慮し、個々にあった調理方法や盛り付けをしている。(刻み食・ペースト)【定期的な母体法人の栄養士のチェックと栄養指導】</p>		
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b></p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個々に応じた口腔ケアを把握して、毎食後実施している。【必要に応じて歯科医の受診や指導を受けている。】</p>		
43	(16)	<p><b>○排泄の自立支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>個々の排泄パターンを把握して、自立に向けての支援を行っている。</p>		

44		<p><b>○便秘の予防と対応</b></p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>献立にも便秘予防のメニューを取り入れたり（繊維の多く含まれた野菜など）、日常的に体操を行い便秘予防に努めている。（毎日の排泄チェック）</p>		
45	(17)	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b></p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>その都度本人の希望を聞き、いつでも希望の日や時間に入浴ができるように配慮をしている。</p>		
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b></p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の思いや体調を優先して、自由にゆっくり休めるように支援している。</p>		
47		<p><b>○服薬支援</b></p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員は利用者それぞれの内服薬について理解し、服薬支援を行っている。また、症状の変化の確認に努めている。</p>		
48		<p><b>○役割、楽しみごとの支援</b></p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>花の世話をしたり、本や新聞を読んだり、芝生の草取りなど、利用者一人ひとりの思いに沿った過ごし方を支援している。</p>		
49	(18)	<p><b>○日常的な外出支援</b></p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人の希望を聞き、自宅周辺や馴染みの場所へ散歩に行ったり、ご家族の協力を得て外出・外泊などの支援をしている。</p>		

50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b></p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人で管理している方もおり、利用者に応じた対応を行っている。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b></p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望に応じてその都度電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。(個人での携帯電話2名所有)</p>		
52	(19)	<p><b>○居心地のよい共用空間づくり</b></p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は環境設備を行い、不快や混乱を招くことのないように努めるとともに、室内でも季節感が感じられる装飾をして、居心地良く過ごすことが出来るように配慮している。</p>		
53		<p><b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b></p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人になれる居場所も確保しているが、利用者はフロアで過ごすことが多い。</p>		
54	(20)	<p><b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b></p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の使い慣れたタンスや椅子などを持参してもらい、本人が居心地良く過ごせるようにしている。</p>		
55		<p><b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b></p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>家具の高さや床マットの滑り止め・トイレの表示など、利用者個々に合わせた環境作りを行っている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				